

## 會員の頁

第22卷第12號 昭和11年12月

### 技術者の協力向上

會員須之内文雄\*

恵まれざる技術者の境遇に憤慨し、之の打開が叫ばれて以來年久しい。然るに僅かの例外を除いて、相交らず5歳も10歳も年下の若法学僧の命令下に操られてゐる老技術者の姿に変りはない様である。我々の命なる土木と名のつく長官の椅子に我が土木技術者が殆んど絶対にかけられないと云ふ奇現象も未だ続いてゐる。土木國策の樹立に當つても最後の隅の方に2,3名の技術者を連ねてゐるに過ぎない例を度々見る。之等は何れも官界に於て政治指導の鍵を、民間に於て資本の鍵の大部分を他に奪はれ、1個の機械視されつゝある祖國日本土本技術者の一般現状である。實に我が土木技術界の現状は、明治の開發期に於て全技術の第一線に立ち、法經の一端を突きつゝあつた旺盛期に比し、逆行衰退の跡無しとは言ひ難い有様の様である。

電氣、機械、應用化学等の諸技術者が産業界に在つて今や大躍進を遂げつゝある姿を我々は見聞してゐる。更に又理論科学者群の協力進出の姿をも見てゐる。昭和日本土木技術者の奮起が切に要望される所以である。

今や空論の時代は去り、科学技術の尊重如何が國々の盛衰に重大關係を有し行くの事實は法律萬能のスペイン、大英國等の衰退、新科学技術率先吸收の米獨の躍進等に之を見る事が出来る。全國の技術者、科学者は協力以て祖國の躍進を計らなければならぬ時期であり、之が實行方法を如何にすべきかが我々に課せられた重大問題である。

顧みるに人の世には矯正すべき多くの不當、矛盾が相並んでゐる。そして過去に於て、之等不當の矯正の爲には萬の議論が闘はされ、千の犠牲が拂はれ來つた事實を我々は知つてゐる。遠慮した消極組が常に封ざられ來つた歴史は各所に残されてゐる。各種矛盾の矯正成功の爲には同意人物の強き團結を中心とした輿論の喚起及之に伴ふ強き實行の力の働いてゐる跡をも見る事が出来る。

かくして我々技術者群の向上は強き團結と人物の養成とに歸着するのであるが、總て輿論に訴へて社會情勢をつくり、團體の共同進展を計るが爲には其の團體員、其の呼びが相當數を擁してゐる事が先づ必要である。我々は先づ我が土木學會員僅か6000名だけが良くならうとか、6000名の呼びで大きな事が出来る等と言ふ考へを捨てなければならない。況や同じ土木の中に於てさへ鐵道だ内務だ請負だ等と稱してゐるが如き小人數は問題にならない。

四、五萬に過ぎない我々土木技術者群の呼びは比較的小さいかも知れないが之を全技術者の呼びとする時は相當の力を持つに至るであらう。更に之に科学者群を加へて輿論の強化を計る事も出来るに相違ない。要は我々が此の中心になつて此の情勢をつくり進まんとするにある。

土木建築技術の中にも電氣機械等の新科学技術が應用される事により、新しき進歩期待が可能であり、應用化学、機械電氣等の進歩は礦山冶金方面の驚くべき發展を齎す等、最近の各種科学技術相互間の關係は益々密接を加へ來つたのであるが、一方之等の地位向上等に當つても協力の必然性があり、小異を捨てゝ之が協力の強化を計らなければならぬ事は當然である。

\* 工学士 東京地下鉄道株式會社勤務

今や軍人が一致した軍人精神を以て新日本をリードし行くと同様、平和戦時兩者に於て祖国躍進の原動力たる我々技術者は一致した技術精神の下に法律經濟の空論家に代つてアジア雄飛の民族指導に當らなければならぬ。之が爲には過去の轍は踏まざる様之を直ちに改め、技術者各自の修養、向上、霸氣の養成等が急務である事は言ふ迄もない。翻つて現代社會を見るに社會は一個の有機體であり頗る複雜してゐる。従つて我々グループの中より各種の型の人物が輩出し他との協力發展に當り、一方グループの向上を計らなければならない。されば現代社會に在つては特殊人を除き、自己専門の知識のみを以てしては其の専門知識の完全な實用さへ期し得ず、己が専門と全社會との關係を完め知識の實行力を養はなければならぬのである。一局内の諸事項に最も精通してゐるから局長たる資格が満點であるとは言ひ得ず、局長たらむが爲には一段上なる省内の諸事項に精通するの要あるは明らかである。同様にして課長たらむには局内、大臣たらむには全國内全世界の諸事情に精通してゐなければならぬ。己が省、局、課内だけの大臣、局長、課長では豫算の分捕り競争や自己主張の羅列のみで統制された國政を進めて行く事は不可能である。かくして土木の事に全通して居れば土木局長としての資格充分なりと言ふ事の出来ないのは明らかであり、現状を慨嘆する技術者の一考を要すべき點である。要するに我が技術界の向上發展の爲には技術の研磨と相並んで一般社會知識の吸收に勉め、互ひの人格を磨き、群内より幅廣き偉人の輩出を計り、力強き一群の歩みを進めなければならない。

今や我が日本國民は十億の民の先頭に立つてアジアの開發に向つてスタートを切つた。アジアの新天地開拓の大業は皇軍の命を投げ出しての奮闘と同時に先進歐米の諸知識を理想的に把握し得た我が國文化の力によるべき事は言ふ迄もない。其の文化の力の大中心をなすものは科学技術の力であり、更に我が土木技術が新天地開拓の第一線に立つの習ひは往時より変りが無い。一方實際の戰爭に當つても國軍の鍛錬と共に其の國の有する科学技術力が興廢を決する力であり、政治經濟等の如きは今や軍人、技術者等の常識を以て容易に會得實行し得るのである。大陸の開發に當り我々は歐洲文化の長を探り、諸民族を指揮して肥沃北米に無比の天地を實現した米國民の偉大なる成功を見てゐるが、先進の長を探り、其の轍を改め理想的文化の實現を期さなければならない。我が土木技術者は軍と共に此の大業の第一線に立つのであり、之が爲には土木技術者群の協力向上を常に心がける必要のあるのは勿論である。

技術の向上を計り、法經の諸群と技術者間とに存する不合理の徹底を計らんとする我々は、同時に我が國の中に同様の不合理なきやを願みなければならない。己れ改めずして他人に改変を迫る資格の無いのは明らかである。僅か數年の経路なる出身学校を以て進路の大部分を決定し、高工出の最進出者が大学出の最悪者に及ばざるが如き官界の現状等は第一に改むるを必要とする。法經方面に於ても同様の事実がある等と謂ふべきではなく、事務方面に率先して其の不合理を改め情勢をリードし行く處にこそ我が技術の奮起があり、新進出があるのである。

思ふに機械文明の現代に於ては各種の職務が益々密接な有機的連繫を必要とし、之を事務技術に兩分するが如き方法は十九世紀の遺物であり、之による能率の減退、連繫の齟齬、經營の散漫化等の不結果は如何にも多い。東洋の新天地に世界に誇る合理的文化を礎かんとする我國は世界に率先して此の弊を改めなければならない。之に基き官吏任用令の如きも根本的改革の必要があり、技術者側よりなる各種の案も生れて来るであらう。土木省の設置等と言ふも任用の根本を改めざる時は技術者の主張が永久に軽視される事は確實である。

埋立、干拓、交通路の開拓、水力の利用其他土木の仕事は無限に存在してゐるのであるが、要は政治經濟技術の諸事情に照し其の實行方法順序等を如何にするかにある。與へられた仕事を其の儘完成に當るは職人の業であり、眞の技術は其の着手順序、速かにして全き完成方法等を國家的大局に照して研討し、之を主張實現しなければならぬ。

い。

土木工事完成の根本力となるものは實に請負當事者であるのであるが、我が請負界の現状に對し各種の改革を必要とする事は萬人の認むるところである。此の重大革新に當つてこそ土木技術者側よりの不動の主張が行はれ實行されなければならぬ。我が土木技術界の發展淨化の舞臺は確かに此の方向にある。請負界を下品として官界にのみ走り、隱居役にのみ之を任すが如き虚榮土木技術を以てしては眞の技術發展は期待し得ない。請負界の人物養成技術研磨に重心を置く土木技術界の發展こそ今後に於ける我土木技術界的一大懸案であり、請負業をして眞に淨化された產業化し、官民一致國土の開發に當らなければならぬと確信する。

## 行政機構改革よりも人的要素の改良が肝心

會員 伊 藤 剛\*

近頃新聞紙上を賑やかしてゐるものに行政機構改革問題なるものがある。例によつて軍部の提倡にかかるものであり、宮本武之輔氏は“水利と土木”誌上で次の如く述べてその必要を論じてゐる。

“膨脹し繁雑化した行政事務に對し數十年前の機構で満足出来る筈はない”と。併し私は思ふ、機構の改革のみで之を構成する人的要素が舊來以存では何にもならぬ。寧ろ後者の改良の方がより肝要ではあるまいかと。我が土木行政方面に例をとるに山間水源地方では小支流を挿んで内務、農林兩省の砂防工事が蠶蠅の斧を揮ひ合つてゐる。地方道路上では内務、鉄道兩省が省営バスを闊んで通す通さぬで銷當てをしてゐる。何れも自分の経験、認識を最善と信じ之に闘争本能が加はつた結果に他ならぬ。これ等の人々を同じ室に入れ机を並べさせた所で相変らず偏った認識を振り廻して闘争本能を發揮するに違ひない。こゝに於て私は人的要素の改正を叫ぶのである。人なくして何の機構ぞ。人の叩き直しこそ非常時日本の最大急務では無からうか。例として土木界に於ける問題を考へて見やう。土木工事なるものは國家の保安維持、經濟發達上重大なる關係を有するものなることは言を俟たぬ。殊に自然の造山力に對抗する工事なるが故に此の力、恐る可き神の力に對しては充分の認識と敬虔なる態度こそ肝要なりと信ずる。徒らに心おごつて自然を制服したが如き自惚れを持つ可きでない。近年の大災害が之等の事情に起因した所多少共あると思はれるのは誠に遺憾である。人間養成即ち腹をつくり、精神を入れ変へ和協の精神を養ひ併せて経験、認識を深めしむる仕事は云ふ可くして實に容易ならぬ仕事である。先づ小学教育から始まる。大学教育に至つては特に影響する所が多い。この點大學教授諸公のより多き助力を乞ふ次第である。一度学生が社會に出ては如何。これからが最も重要にして然も世に關心を持たれる事最も稀薄なる所である。まだ社會觀念も養はれず確たる自信も持たぬ之等の若鳥は遠く山間僻地に追ひやられる。技術者としては最も必要な經路ではあるが周囲は何の刺戟もなく理解もない。之等の間に放置して果してこの若鳥は健全なる成育をなし遂げられやうか。私が行政機構改革を卷添へにしてこゝに禿筆を呵して來た理由はこゝにある。世の先輩達よ、公務多端なりと雖も次の時代を双肩に擔ふ可き之等の若鳥の養成を眞剣に考へて下さらん事をお願ひする。機構の改革は華やかであり、短時日で出来る、人の養成は地味な仕事であり長年月を要する。併し現在日本の根本問題は後者を指いて他に無いと私は信ずるのである（昭 11. 11. 10）。

\* 内務技師 工学士 内務省土木局第 2 技術課勤務